

富山県神社総代会長賞

魚津市立よつば小学校 三年 轡田 智広

『ぼくの願い』

今年の元日は、いつもの年と同じように始まりました。午前中に家の近くの魚津神社にはつもうでに行き、神様に向かって、手を合わせておいのりしました。

「家族みんながけんこうですごせませすように。」これは、元日にお願ひしたことです。去年の九月、家族みんなが新型コロナウイルスにかんせん症にかかりました。そのために、ぼくは運動会に出ることができませんでした。練習では百メートル走で二位でした。本番に出て去年よりもいい二位を取りたかったけれど、できなくて残念でした。だから、けんこうな一年になるようにと、神社でお願ひしました。

「ファンファン、ファンファン」元日の午後、きんきゅう地しん速ほうが鳴りました。大きな地しんが来て、すぐくこわかったです。テレビから大きなつなみがあるとほう送があり、ぼくも、お父さんもお母さんも大あわてで、近くのコミュニティーセンターにげました。何度も地しんがあつて不安でした。毎日地しんが来るたびに、つくえの下ににげこみました。テレビのニュースで、能登半島地しんのじょうほうが流れました。大きなひがいで、大変な思ひをしている人がいることを知り、悲しくなりました。

一月四日、もう一度魚津神社に行き、おまいりをしました。「大きな地しんが来ませんように。」これが、四日にお願ひしたことです。やくよけのお守りを買いました。お守りを見ながら、家族で、地しんが来たらどうするかということを考えました。魚津神社の石づくりの鳥居にも、ひびが入っていました。くずれなかったのは、「魚津神社の神様の天照大神が守ってくださったのかな」と、ぼくは思いました。

熊盛半島地しんをきっかけに、いつも通りに遊んだり、ごはんを食べたりできるのは辛せなことで、神様がぼくたちを守ってくれているのだろうと考えました。神様に感しゃすることをお忘れずに、すごしていきたいです。

「みんながけんこうで、安全で安心してすごせる日がつづきますように」これが、ぼくの願ひです。